

1. アクションガイド策定の趣旨

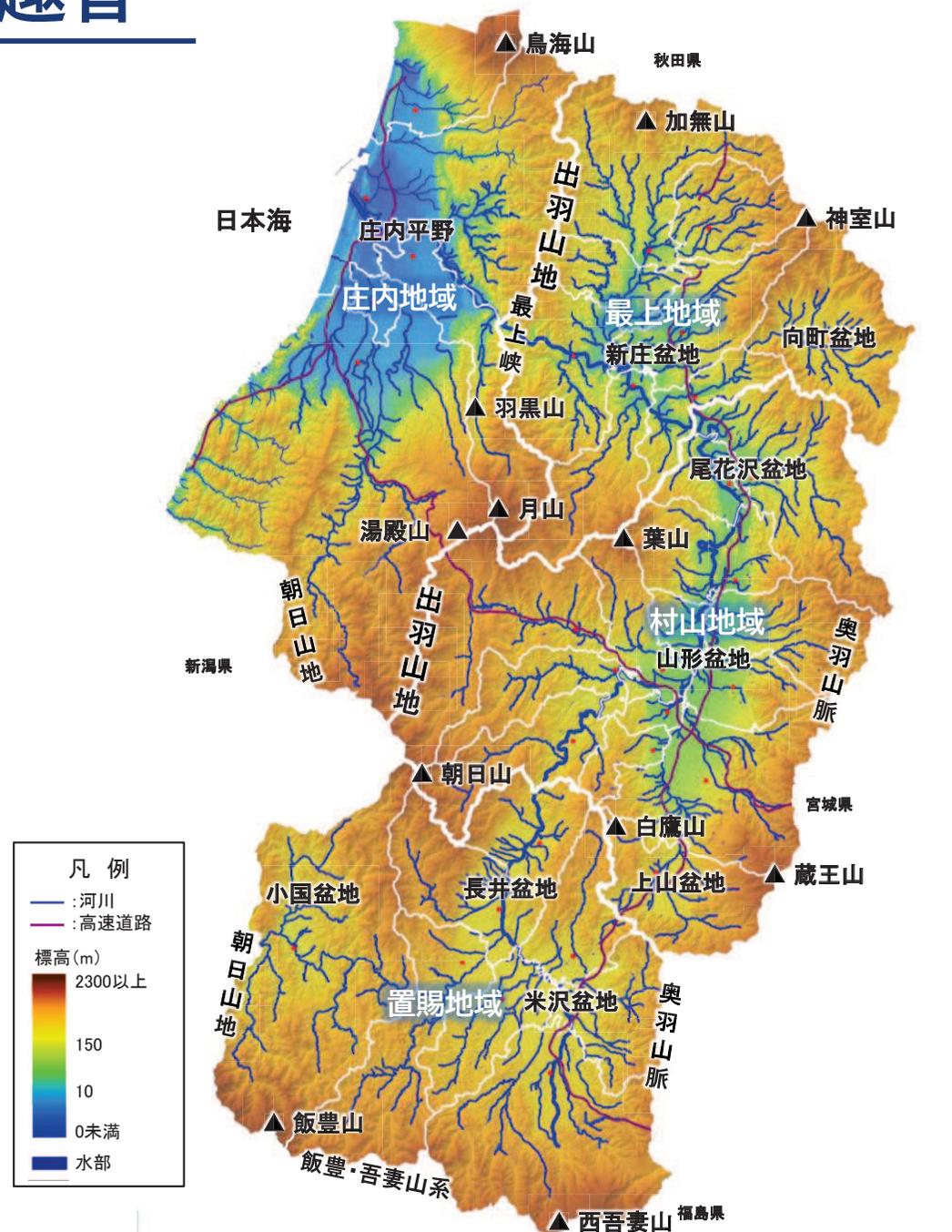
本県では、地域ごとに異なる災害リスクがあります。直下型地震や、到達が早い津波、豪雪、火山噴火による火砕流など、災害の種類は多様で、一つの対応策だけでは十分ではありません。さらに、気候変動の影響で自然災害は頻繁に起こり、規模も大きくなっており、従来の想定を超える災害が増えています。

一方で、社会の状況も大きく変わっています。人口減少が加速し、人口構造も変化する中、自治体の人材は限られており、公的な支援（公助）だけでは対応に限界があります。また高齢化が進み、価値観やライフスタイルも多様化しています。その結果、地域防災の担い手不足が深刻化し、一部の人に負担が集中するなど、地域防災を巡る環境に課題も生じています。

災害リスクの増大と社会構造の変化に対応し、地域の防災力を高めるためには、一人ひとりの備え（自助）と、地域での助け合い（共助）が欠かせません。

自助と共助を確実に機能させるため、県民や関係者が同じ理念を共有し、体系的に取り組むための明確な行動指針が必要です。こうした思いから、県ではこのたび「地域における防災学習アクションガイド」を策定しました。

このアクションガイドは、県民や地域が防災活動に取り組む際の基本的な方向性を示すものです。県はこの指針に基づき、必要な情報や支援を提供し、地域の取組みを後押ししていきます。ガイドを踏まえて、県民一人ひとりが主体的に考え、地域で協力しながら行動することで、自分の命を守る力と、互いに助け合う力を育み、災害による被害をできる限り減らすことができる地域社会を、ともに築いていきましょう。



【出典：国土地理院 デジタル標高地図(山形県)に加筆し作成】

▲山形県内の地形・地図